

Godox 神牛

X2T^C

TTLワイヤレスフラッシュトリガー
TTL Wireless Flash Trigger



深圳市神牛摄影器材有限公司

GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

所在地/Add: 深セン市宝安区福海街道塘尾社区耀川工业区厂房2棟1階~4階、4棟1階~4階

1st to 4th Floor, Building 2/ 1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone,

Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China

電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423

電子メール/E-mail: godox@godox.com www.godox.com

705-X2TC00-03

Made In China

取扱説明書

FC CE RoHS  

目次

- 02 はじめに
- 02 警告
- 03 部品
 - 本体
 - LCDディスプレイ
- 04 電池
 - 電池の取り付け
 - 電池残量の表示
- 05 フラッシュトリガーの設定
 - 電源スイッチ
 - 自動に節電モードに入ります
 - AF補助フォーカシングランプスイッチ
 - チャンネル設定
 - ワイヤレスIDの設定
 - モード設定
 - 出力値設定
 - 露出補正の設定
 - ストロボパラメーター(出力、回数、周波数)の設定
 - モデリングランプの設定
 - ZOOM値の設定
 - シャッターシンクロの設定
 - ブザーの設定
 - シンクロソケットの設定
 - SHOOT機能の設定
 - C.Fnカスタム機能
- 12 フラッシュトリガーの使い方
 - ワイヤレスシンクロによるセットアップフラッシュのトリガー
 - ワイヤレスシンクロによる屋外撮影フラッシュのトリガー
 - ワイヤレスシンクロによるオリジナルフラッシュのトリガー
 - ワイヤレスシンクロによるスタジオフラッシュのトリガー
 - ワイヤレスによるカメラシャッターのトリガー
 - 3.5mmのシンクロポートによるフラッシュのトリガー
 - BluetoothによるトリガーとスマホAPPの接続
- 18 対応可能なスマホリスト(シンクロ発光可能)
- 18 対応フラッシュのタイプ
- 19 対応カメラリスト
- 20 仕様
- 21 出荷時設定へのリセット
- 21 ファームウェアアップグレード
- 22 注意事項
- 22 フラッシュトリガーの保守

X はじめに

この度はX2T-Cワイヤレスフラッシュトリガーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本フラッシュトリガーはCanonカメラ制御神牛フラッシュに適用し、神牛ワイヤレスXシステムをサポートするセットトップライト、屋外撮影ライト、スタジオフラッシュに使われ、また、X1R-Cと組み合わせでCanonオリジナルフラッシュをサポートできます。マルチチャンネルでコントロールし、信号が穏やかであり、感度が高く、カメラマンの配光に便利し、各種撮影ニーズを満足できます。本トリガーはホットシューを装着するCanon EOSシリーズカメラに適用すると同時に、PCポートを有するカメラと接続して使用でき、E-TTL II フラッシュとハイスピードフラッシュをサポートし、最大フラッシュシンクロスピードが1/8000sに達しています。

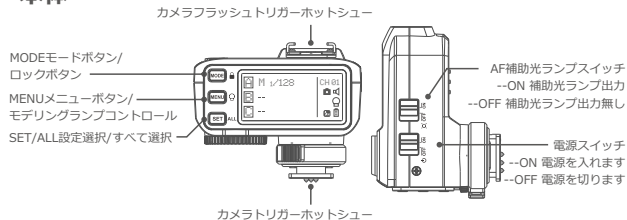
*：制限条件——カメラの最大シャッタースピードは1/8000sです。

警告

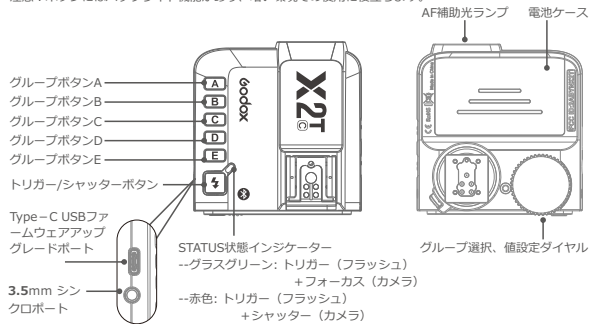
- ▲ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門家より
- ▲ チェックし、メンテナンスします。乾燥を保ってください。濡れた手で製品に触れないでください。また、製品を水に浸したり、雨の中に暴露したりしないでください。
- ▲ 子供に本製品を触れさせないでください。
- ▲ 燃焼しやすく爆発しやすい環境で使用しないでください。このような場合、関係警告マークに注意してください。50℃を超えた高温環境で置かないでください。
- ▲ いかなる故障が起こった場合、直ちにトリガーの電源を切ってください。
- ▲ 電池使用時の注意事項は下記の通りです。
本マニュアルに記載された電池だけを使うことができます。新しい電池と古い電池またはタイプの違った電池を混ぜて使わないでください。メーカーの提供した警告または指示を詳しく読んで遵守してください。
電池を短絡させたり、電池を分解したりしないでください。
電池を火の中に捨てたり、加熱したりしないでください。
電池を装着する時に、電池の極性を間違わないでください。電池が切れると、液漏れしやすくなります。製品を損なわないため、長期間にわたって使わない時、または電池が切れた時に、電池を取り出ししてください。
損なわれた電池中の液体が皮膚または衣服に触れた場合、直ちに大量な清水で洗い流してください。

X 部品

● 本体

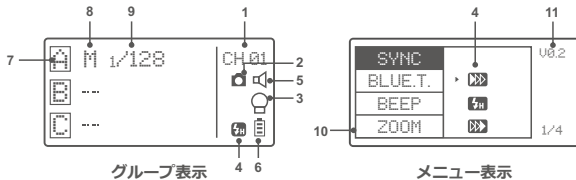


注意：ボタンにはバックライト機能があり、暗い環境での使用に役立ちます。



X 部品

● LCDディスプレイ



- 1.チャンネル (全部で32個のチャンネル)
- 2.カメラとの接続
- 3.モデリングランプ総制御
- 4.ハイスピード/後幕
- 5.音声
- 6.電池残量
- 7.グループ
- 8.モード
- 9.パワー
- 10.ZOOM値
- 11.バージョン番号

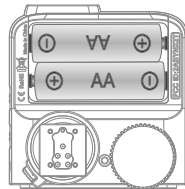
X 電池

● 電池の取り付け

フラッシュトリガーの裏面にある電池ボックスのカバーを開け、電池ボックス内に指示された正極、負極によって、それぞれ2個のAA電池(別に購入する必要があります)を装着します。

● 電池残量の表示

使用時にLCDパネルにある電池アイコンをチェックするだけで、随時に電池残量を把握できます。



X 電池

LCDパネル電池残量表示	意味
3グリッド	電池残量はまだ十分あります
2グリッド	電池容量は減り始めました。
1グリッド	電池残量は低くなりました。
フレーム	残量が僅かで、直ちに電池を交換してください。
点滅	<2.5V電池容量がすぐ切れます(この時、電池を交換してください。そうしないと、距離が遠くなると、ミスフラッシュしたり、フラッシュしなかったりします)。

* この電池残量表示はAAアルカリ乾電池だけに対応するものです。ニッケル水素電池は電圧が低めであり、このリストを参照しないでください。

X フラッシュトリガーの設定

● 電源スイッチ

電源スイッチを「ON」にすると、電源を入れ、状態インジケータは表示しません。

注意：節電するため、長時間にわたって使わない場合、電源を切ってください。

● 自動に節電モードに入ります

1. トランスミッターを操作し終わってから60秒経つと、システムは自動に待機モードに入り、この時LCD表示は消灯します。

2. システムを呼び覚ましたい場合、いずれかのボタンを押すだけで良いです。CANON EOSカメラのホットシューに取り付けられた場合、カメラシャッターを半押ししてシステムを呼び覚ますこともできます。

注：節電モードに入りたくない場合、<MENU>ボタンを押して、カスタムメニューに入り、STBY設定をOFFにするだけで良いです。

● AF補助フォーカシングランプスイッチ

AF補助フォーカシングランプスイッチを“ON”にし、AFフォーカシング光線の出力を許可します。ピントがなかなか合わない時、フォーカシングランプが自動に点灯します。ピントを合わせると、フォーカシングランプは自動に消灯します。

X フラッシュトリガーの設定

● チャンネルの設定

1. <MENU> ボタンを押して、メニューのCH設定チャンネルに入ります。
2. ダイヤルを動かして相応するチャンネル値を選択します。メニュー画面を終了すると、現在チャンネル値が選択されます。
3. トリガーには合計32チャンネルがあり、1~32チャンネルの間で切り替えることができます。ご使用前に、ぜひトリガーとスレーブサイドを同じチャンネルに設定してください。

● ワイヤレスIDの設定

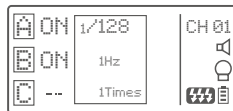
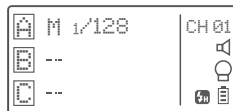
干渉を避けるため、ワイヤレス伝送チャンネルを変更するほか、また、ワイヤレスID、マスターユニットとスレーブユニットワイヤレスIDを変更し、チャンネルを一致させてから、トリガーできます。

<MENU>ボタンを押してC.Fn IDに入り、<SET>ボタンを押してOFFチャンネル拡張シャットダウンを選定し、01~99からいずれかを選択します。

*注：スレーブユニットはこの機能を備える場合のみに、使うことができますが、この機能を備えない場合、IDをOFF状態に設定してください。

● モードの設定

1. グループボタンを押して一つのグループを選択してから、<MODE>ボタンを押すと、現在のグループのモードはTTL/M/--モードの間で順番に切り替えることができます。
2. 通常状態で<MODE>ボタンを押すと、マルチグループモードはMULTIモードに切り替えることができます。グループ選択ボタンを押すと、現在のグループのMULTIモードを「ON」または「--」に設定できます。



フラッシュトリガーの設定

● 出力値の設定

Mモードで

1. グループボタンを押してグループを選択し、ダイヤルを回すと、そのパワー出力値はMin～1/1の間で0.1または0.3毎に変化します。<SET>ボタンを押すと、当該グループのパワー出力値を確定します。
2. <ALL>ボタンを押してトータルグループパワー出力値を選択し、ダイヤルを回すと、そのパワー出力値はMin～1/1の間で0.1または0.3毎に変化します。再度<ALL>ボタンを押すと、当該グループのパワー出力値を確定します。

注：Min.はMまたはMultiモードで設定可能な最小出力値です。C.Fn-STEPの設定値によって、それぞれ1/128 0.3、1/256 0.3、1/128 0.1、1/256 0.1、3.0 (0.1)、2.0 (0.1)です。

大部分のカメラフラッシュの場合、支持する最低出力は1/128で、1/256までに設定できません。神牛社のAD600などのようなラージパワースタジオライトと組み合わせると、最低出力を1/256までに調整できます。

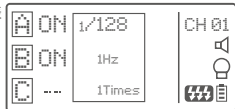
● 露出補正の設定

TTLモードで

グループボタンを押してグループを選択し、ダイヤルを動かすと、そのFEC値は-3～3の間で0.3刻みに変化します。<SET>ボタンを押して当該グループのFEC値を確定します。

● ストロボパラメーター（出力値、回数、周波数）の設定

1. ストロボモードにします(TTLとMアイコンはいずれも表示しません)。
2. 三行の表示内容はそれぞれパワー出力値、Times(発光回数)、Hz(発光周波数)です。



フラッシュトリガーの設定

3. <SET>ボタンを押して、ダイヤルを動かすと、そのパワー出力値がMin .～1/4の間で整数段で変化します。
4. 再度<SET>ボタンを押して、Hzを選択すると、周波数を変えることができ、ダイヤルを動かして設定値を変更できます。
5. さらに<SET>ボタンを押して、Timesを選択すると、点滅回数を変えることができ、ダイヤルを動かして設定値を変更できます。
6. このようにこの三つの設定値を設定し終わります。また、いずれかの項目を設定する時に<SET>ボタンを押すと、設定状態から退出できます。点滅する項目はありません。
7. ストロボパラメーター設定サブメニューで点滅する項目はない時に、<MODE> ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。

*注意：発光回数は発光出力値と周波数に制限され、設定した発光回数はシステムに許容される上限を超えてはいけません。レシーバ側に伝送した回数は実際発光回数であり、カメラのシャッター設定とも関係があります。

● モデリングランプの設定

1. <MENU> ボタンを2秒長押しすると、モデリングランプをONにしたり、OFFにしたりすることができます。

● ZOOM値の設定

1. <MENU> ボタンを短く押して、メニュー設定画面ZOOMに入ります。<SET>を押して、調整つまみを動かし、ZOOM値はAUTO/24-200の間で変化します。設定したい値を選択してから、メインメニューに戻ります。

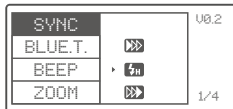
注：フラッシュのZOOMはAuto (A) モードに設定された場合だけに応答できます。



X フラッシュトリガーの設定

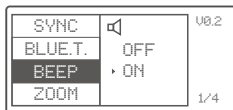
● シャッターシンクロ設定

1. **Fn** ハイスピードシンクロ: <MENU>ボタンを短く押し、メニュー設定画面SYNCに入り、ハイスピードシンクロを設定し、パネルに**Fn**を表示させます。
2. **▶▶** 後幕シャッターシンクロ: <MENU>ボタンを短く押し、メニュー設定画面SYNCに入り、後幕シンクロを設定し、パネルに**▶▶**を表示させます。



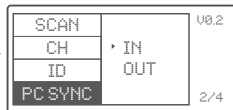
● ブザーの設定

1. <MENU>ボタンを押してメニュー設定画面BEEPに入り、<SET>ボタンを押して、ONを選択すると、ブザーが起動し、OFFを選択すると、ブザーがシャットダウンし、再度<MENU>ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。



● シンクロソケットの設定

1. <MENU>ボタンを押してメニュー設定画面PC SYNCに入り、<SET>ボタンを押してINまたはOUTを選択し、再度<MENU>ボタンを押してメインメニューに戻ります。
 - 1.1 INを選択した場合、このポートはX2T-Cをトリガーしてフラッシュを発光させます。
 - 1.2 OUTを選択した場合、トリガー信号を出力し、他のリモコンとフラッシュをトリガーします。



X フラッシュトリガーの設定

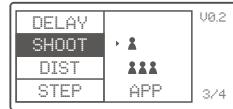
● SHOOT機能の設定

<MENU>ボタンを押してC.Fn SHOOTに入り、<SET>ボタンを押して1枚撮影または複数枚撮影を選択します。再度<MENU>ボタンを押すとメインメニューに戻ります。

1枚撮影: 撮影する時に1枚撮影を選択すると、MとMultiモードにおいてマスターユニットはスレーブユニットだけにトリガー信号を送信します。1枚撮影は一人撮影の場合に適用し、節電のメリットを有しています。

複数枚撮影: 撮影する時に複数枚撮影を選択すると、マスターユニットはパラメーターとトリガー信号をスレーブユニットに送信します。複数枚撮影は複数人の撮影に適用するが、パワー消費が速いです。

APP: 撮影する時にトリガー信号（スマホAPPでフラッシュのパラメーターをコントロールします）だけを送信できます。



× フラッシュトリガーの設定

● C.Fnカスタム機能の設定

下記の表の本製品応用欄を参照して、カスタム機能を利用して設定してください。

カスタム機能符号	機能	設定符号	設定と説明
SYNC	シャッターシンクロの設定		先幕
			ハイスピード
			後幕
BLUE.T.	Bluetooth状態の設定	OFF	シャットダウン
		ON	起動
BEEP	ブザー	ON	起動
		OFF	シャットダウン
ZOOM	ZOOMの設定	24	AUTO/24-200
SCAN	空きチャンネルスキャン	OFF	シャットダウン
		START	起動して最も小さい干渉を受けたチャンネルをチェックします
CH	ワイヤレスチャンネルの設定	01	01-32グループ
ID	ワイヤレスID	OFF	シャットダウン
		01-99	01~99から任意の数字を選択できます (古かったタイプのフラッシュは目下この機能を使用できません)
PC SYNC	シンクロナソケット	IN	X2T-Cをトリガーして、フラッシュを発光させます
		OUT	トリガー信号を出力し、他のリモコンとフラッシュをトリガーします
DELAY	遅延設定	OFF	シャットダウン
		0.1ms-9.9ms	トランスミッターに対し、遅延してトリガーします
SHOOT		単独撮影	カメラは撮影する時にM&Multiモードでトリガー信号だけを送信します。
		複数人撮影	カメラは撮影する時にパラメーターとトリガー信号を送信します (複数人撮影に適用)
	APP	APP	カメラは撮影する時にトリガー信号だけを送信します (スマホAPPでフラッシュパラメーターを制御)
DIST	トリガー距離	0-30m	0-30mトリガー
		1-100m	1-100mトリガー
STEP	ステップ	1/128(0.3)	最低出力は1/128です(0.3刻みに)
		1/256(0.3)	最低出力は1/256です(0.3刻みに)
		1/128(0.1)	最低出力は1/128です(0.1刻みに)
		1/256(0.1)	最低出力は1/256です(0.1刻みに)
		3.0(0.1)	最低出力は3.0です(0.1刻みに)
		2.0(0.1)	最低出力は2.0です(0.1刻みに)

× フラッシュトリガーの設定

カスタム機能符号	機能	設定符号	設定と説明
GROUP	グループ	5 (A-E)	五つのグループA-E
		3 (A-C)	三つのグループA-C
STBY	待機	60sec	60秒
		30min	30分
		60min	60分
		OFF	シャットダウン
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後に自動消灯
		OFF	常時消灯
		ON	常時点灯
LCD	LCDコントラスト	-3~+3	コントラスト値は-3~+3の整数を選択できます

× フラッシュトリガーの使い方

● ワイヤレスシンクロによるセットトップフラッシュのトリガー

使い方：TT685Cを例に取ります。

1.1 カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューのソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。

1.2 <MENU>ボタンを短く押して、メニューに入り、チャンネル、グループ、モードとパラメータを設定します(詳しくはトリガーの設定説明を参照してください)。

SCAN	▶ 19	U0.2
CH		2/4
ID		
PC SYNC		

X フラッシュトリガーの使い方

1.3 セットトップフラッシュの電源を入れ、<Fn>ワイヤレス設定ボタンを押し、パネルに<(P)>ワイヤレスアイコンと<SLAVE>スレーブユニットアイコンを表示させ、<CH>チャンネル設定ボタンを押し、フラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<Gr>グループ設定ボタンを押し、フラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：他のタイプのセットトップフラッシュ設定は対応するセットトップフラッシュの取扱説明書を参照してください)。

1.4 カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にフラッシュトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。

● ワイヤレスシンクロによる屋外撮影フラッシュのトリガー

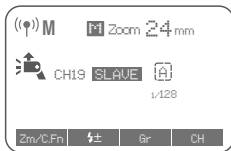
使い方：AD600Bを例に取ります。

2.1 カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。

2.2 <MENU>ボタンを短く押して、メニューに入り、チャンネル、グループ、モードとパラメータを設定します(詳しくはトリガーの設定説明を参照してください)。

2.3 屋外撮影フラッシュ電源を入れ、<Fn>ワイヤレス設定ボタンを押し、パネルに<(P)>ワイヤレスアイコンを表示させ、<GR/CH>グループチャンネル設定ボタンを長押しして、フラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<GR/CH>グループ設定ボタンを押して、フラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：他のタイプの屋外撮影フラッシュ設定は対応する屋外撮影フラッシュの取扱説明書を参照してください)。

2.4 カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にフラッシュトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。



X フラッシュトリガーの使い方

● ワイヤレスシンクロによるオリジナルフラッシュのトリガー

使い方：600EX-RTを例に取ります。

3.1 カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。

3.2 <MENU>ボタンを短く押して、メニューに入り、チャンネル、グループ、モードとパラメータを設定します(詳しくはトリガーの設定説明を参照してください)。

3.3 オリジナルセットトップフラッシュをレシーバ(X1R-C)に置き、レシーバで<CH>チャンネル設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<Gr>グループ設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じグループを設定します(注：オリジナルフラッシュの設定は対応するオリジナルセットトップフラッシュの取扱説明書を参照してください)。

3.4 カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にセットトップランプとトリガーの「状態インジケーター」が赤色に点滅します。

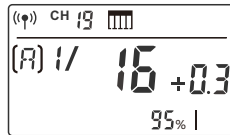


● ワイヤレスシンクロによるスタジオフラッシュのトリガー

使い方：GS400IIを例に取ります。

4.1 カメラの電源を切り、フラッシュトリガーをカメラホットシューソケットに置き、フラッシュトリガーの電源スイッチとカメラの電源を入れます。

4.2 <MENU>ボタンを短く押して、メニューに入り、チャンネル、グループ、モードとパラメータを設定します(詳しくはトリガーの設定説明を参照してください)。



X フラッシュトリガーの使い方

4.3 スタジオフラッシュを電源に接続し、電源スイッチをONにし、同時に<GR/CH>と<S1/S2>ボタンを押し続けてパネルに<(9)>ワイヤレスアイコンを表示させ、<GR/CH>グループチャンネル設定ボタンを長押ししてフラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<GR/CH>グループチャンネル設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じグループを設定します（注：他のタイプのスタジオフラッシュの設定は対応するスタジオフラッシュの取扱説明書を参照してください）。

4.4 カメラのシャッターを押すだけでトリガーでき、同時にスタジオランプとトリガーの「状態インジケータ」が赤色に点滅します。

注：スタジオフラッシュの最低出力は1/32であり、フラッシュトリガーの出力を設定する時に、 $\geq 1/32$ の数値を設定すべきです。スタジオフラッシュにはTTLとストロボ機能はないため、フラッシュトリガーを設定する時に、Mモードを選択してからスタジオフラッシュをトリガーできます。

• ワイヤレスによるカメラシャッターのトリガー

使い方：

5.1 カメラの電源を切り、「カメラリモコンケーブル」を通して接続し、片端をカメラのシャッターソケットに差し込み、もう一端をレシーバ(X1R-C)の「シャッターポート」に差し込み、カメラとレシーバの電源をONにします。

5.2 <MENU>ボタンを短く押して、メニューに入り、チャンネル、グループ、モードとパラメータを設定します（詳しくはトリガーの設定説明を参照してください）。

5.3 レシーバで<CH>チャンネル設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じチャンネルを設定し、<Gr>グループ設定ボタンを押してフラッシュトリガーと同じグループを設定します。

5.4 <1/2>トリガーボタンを半押しして、フォーカスします。<TEST>トリガーボタンを押して撮影し、ボタンから手を離すまで状態インジケータが赤色に点灯します。



X フラッシュトリガーの使い方

• 3.5mmシンクロポートによるフラッシュのトリガー

使い方：

6.1 レシーバ側の接続方式は「ワイヤレスシンクロでスタジオフラッシュのトリガー」と「ワイヤレスシンクロでカメラシャッターのトリガー」という節を参照してください。

6.2 トランスミッターサイドのシンクロポートを出力ポートに設定します。具体的な操作は下記のとおりです。トランスミッターサイドで<MENU>ボタンを押して、C.Fnに入り、PC SYNCをOUTモードに設定します。

6.3 正常方式でシャッターを押します。シンクロポート信号を使って発光をコントロールします。



• BluetoothによるトリガーとスマホAPPの接続

使い方：

7.1 <MENU>ボタンを短く押して、メニュー-BLUE.T.に入り、Bluetoothをオンにします。ONの下に当該トランスミッターが接続しているBluetooth ID番号を表示しています。

7.2 iPhoneの場合、APP Storeで「GodoxPhoto」を検索してダウンロード・インストールするか、スマホで2次元コードを直接スキャンしてAPPをインストールしてください。

7.3 スマホで神牛撮影のAPPを起動して^{Bluetooth}を選択します。

7.4 トランスミッターと対応するBluetooth ID番号を接続し、パスワードを入力してマッチングします。（初期パスワードは「000000」です。）

7.5 マッチングに成功すると、APPメイン画面に戻ります。

7.6 Bluetooth機能を起動した後、トランスミッターのパネルにBluetoothアイコンが表示されます。

SYNC		U0.2
BLUE.T.	OFF	
BEEP	ON	
ZOOM	G0BH-A7BC	1/4



“GodoxPhoto”

X フラッシュトリガーの使い方

7.7 スレーブフラッシュのチャンネルをトランスミッターのそれと一致させると、スマホAPPによって、スレーブフラッシュのモード、パワー、モデリングランプとプザー制御を調整できます。

7.8 相応するパラメーターの設定に完成した後、スマホAPPのカメラ画面に入って撮影できます。

注：トリガーとスマホAPPの接続に成功した後、トリガーの自動待機時間を30minに設定できます。



X 対応可能なスマホリスト(シンクロ発光可能)

● 本製品は下記のスマホモデルに対応できます。

iPhone 6S iPhone 6S Plus iPhone 7 Plus iPhone 7 iPhone 8 Plus

iPhone 8 iPhone 6 Plus iPhone 6 iPhone X

HUAWEI P9 HUAWEI P10 HUAWEI P10 Plus HUAWEI Mate 9 Pro HUAWEI Mate 9

HUAWEI Mate 10 Pro HUAWEI Mate 10 HUAWEI P20 HUAWEI P20 Pro

Samsung galaxy S8 Samsung galaxy Note8 Samsung galaxy S9

1. このリストには現在テストされたスマホのモデルのみを列挙したものであり、あらゆるスマホをカバーしていません。他のスマホのモデルについて、お客様は自分でテストできます。
2. 弊社は予告なしにこのリストの内容を変更することがあります。

X 対応フラッシュのタイプ

下記の表を参照し、カスタム機能を使って設定してください。

トランスミッター	レシーバ	フラッシュ	備考
X2T-C	--	AD600シリーズ/AD360IIシリーズ/AD200/AD400Pro/V860IIシリーズ/V850II/TT685シリーズ/TT600/TT350C/クイッカーIIシリーズ/QTII/SK IIシリーズ/DP IIシリーズ/GSII	
	X1R-C	600EX-RT/580EXII/580EX/430EXII V860C	市販している互換可能なCanonカメラのセットトップランプはおびけたく、一つずつ検証できません。
	XTR-16	AD360/AR400 クイッカーファーストジェネレーションシリーズ/SKファーストジェネレーションシリーズ/DPファーストジェネレーションシリーズ/GT/GSファーストジェネレーションシリーズ スマートフラッシュシリーズ	神牛ワイヤレスUSBポート付きのフラッシュトリガーするだけです。
	XTR-16S	V860C/V850	

*注：サポートする機能の範囲：X2T-Cとフラッシュ両方とも有している機能。

X 対応フラッシュのタイプ

- XTワイヤレスシリーズとX2ワイヤレスシステムとのチャンネル関係：

XT-16 (コードスイッチ)								
X2 (ディスプレイスクリーン)	CH01	CH02	CH03	CH04	CH05	CH06	CH07	CH08
XT-16 (コードスイッチ)								
X2 (ディスプレイスクリーン)	CH09	CH10	CH11	CH12	CH13	CH14	CH15	CH16

X 対応カメラリスト

- 下記のCanon EOSシリーズのカメラタイプと互換できます。

1Dx Mark II	1Dx	5Ds/5DsR	5DIV	5D Mark III	5D Mark II	5D
7D Mark II	7D	6D	80D	70D	60D	50D
6D MarkII	77D	800D				
40D	30D	750D/760D	700D	650D	600D	550D
500D	450D	400D				
Digital 350D	DIGITAL 100D	1200D	1000D	1100D	M5	M3
EOS R						
M50	1500D(2000D/T7)	3000D(4000D)				

- このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるCanon EOSシリーズのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。
- 弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。
- 2012年前に発表されたカメラの場合、DグループとEグループはTTLモードを有していません。
- 1500D(2000D/T7)、3000D(4000D)：ハイスピードシャッターが1000を超えた場合、撮影する時にブライトボーターがあります。

X 仕様

- 仕様：

タイプ	X2T-C
互換可能なカメラ	Canon EOSカメラ (E-TTL II 自動発光) をサポートします。 PC出力ポートを有しているカメラをサポートします。
対応スマホ(Mモードシンクロ発光)	iPhone、Huawei、Sungang(対応機種は対応リストをご参照ください)
給電方式	2*AA 電池
露出制御	
TTL自動発光	E-TTL II
マニュアル発光	あり
ストロボ発光	あり
機能	
ハイスピードシンクロ	あり
後幕シンクロ	あり
露出補正	あり、±3の間で1/3毎に変化して調整できます。
露出ロック	あり
補助フォーカス	あり
モデリング発光	あり
ブザー	あり
ワイヤレスシャッター	レシーバ側は3.5mmのシンクロポートでカメラの撮影を制御できます。
ZOOM設定	トランスミッターによってフラッシュの焦点距離を調整できます。
ファームウェア	本体にあるType-C USBポートによってファームウェアアップグレードを行います。
記憶機能	設定されてから2秒後のパラメーターは自動に記憶され、再度起動すると自動に復元します。

仕様

タイプ	X2T-C
ワイヤレス発光	
伝送範囲 (約)	0-100メートル
内蔵ワイヤレス	2.4G周波数
モジュレーション方式	MSK
チャンネル	32個
ワイヤレスID	01-99
グループ	5グループ
その他	
ディスプレイスクリーン	ワイドスクリーン液晶ディスプレイ、バックライト起動またはシャットダウン
フラッシュトリガーサイズ/ネットウエイト	72x70x58mm/90g

出荷設定へのリセット

MODEボタンを押したまま本製品を起動すると、トランスミッターのあらゆるパラメーターは出荷設定に復元されます。

ファームウェアアップグレード

本製品はUSBポートを通してファームウェアアップグレードを行わせることができます。ソフトウェアに関する最新情報及び説明は公式サイトに発表されます。

- 出荷する時に本製品はUSBアップグレードケーブルを同梱していないため、別に購入してください。本製品のUSBポートはType-C USBポートであり、Type-C USBケーブルを使ってください。
- ファームウェアをアップグレードする時に、Godox G3プログラムソフトウェアのサポートが必要であるため、ファームウェアをアップグレードする前に、「Godox G3ファームウェアアップグレードソフトウェア」をダウンロードしてインストールしてから、相応するファームウェアファイルを選んでください。
- ファームウェアをアップグレードした後、取扱説明書は最新電子版に準じてください。

注意事項

1. 正しくトリガーしたり撮影したりすることができなかった場合、電池が正しく装着しているか、フラッシュトリガーの電源を入れているか、フラッシュトリガーが同じチャンネルに設定されているか、接続ケーブルまたはホットシューソケットが正しくしっかりと接続されているか、機能モードが正しく設定されているかを確認してください。
2. カメラが撮影できるが、フォーカスできない場合、本体またはレンズはMF（マニュアルフォーカス）に設定されているか否かを確認してください。AF（オートフォーカス）に設定してください。
3. フラッシュトリガーは他人の干渉によってトリガーされたり撮影されたりする場合、フラッシュトリガーのチャンネル設定を変更するだけで良いです。

神牛2.4Gワイヤレスミスフラッシュの原因及びその対策：

1. 外部環境2.4G信号干渉(例えばワイヤレスベースステーション、2.4Gwifiルーター、ブルトウースデバイスなど)フラッシュトリガーのチャンネルCH設定(+10お勧めします)を調整し、干渉のないチャンネルを探し、または作業中に他の2.4Gデバイスをシャットダウンしてください。
2. フラッシュのリサイクルは完了しているか、リサイクルスピードは連続撮影スピードに間に合うか(フラッシュが準備済みで、インジケーターが点灯しています)、オーバーヒート保護または他の異常があるかを確認してください。フラッシュの出力値を下げてください。TTLモードである場合、Mモードに変更してください(TTLモードで1回予備発光してみる必要があります)。
3. フラッシュトリガーとフラッシュとの距離は近過ぎますか(距離<0.5m)。フラッシュトリガーで「近距離ワイヤレスモード」を起動してください。C.Fn-DISTを0~30mに設定してください。
4. フラッシュトリガーとレシーバ側デバイスは低残量状態にありますか。電池を交換してください(フラッシュトリガーの電池について、使い捨ての1.5Vアルカリ電池をおすすめします)。

フラッシュトリガーの保守

落下防止：強いショックまたは振動を受けると、フラッシュトリガーは故障になることがあります。

乾燥維持：本製品は防水機能を持っていないため、それを水中に浸したり、湿度の高い環境に置いたりすると、故障になり、内部構造に錆が出て修理不能な損害を受ける可能性があります。

温度急変防止：温度の急変、例えば寒い季節に暖かいビルを出入りすることはフラッシュトリガーの内部に結露を起こさせることがあります。温度の急変による結露を避けるため、予めフラッシュトリガーをバッグまたはプラスチック袋に入れてください。

強磁場から遠く離れること：ラジオ放送トランスミッターなどのデバイスによる強い静電または強磁場は本製品の正常動作を干渉する可能性があります。